2021年4月号
No. 96

～出会いとふれあいの場～
# ハロー公民館
南街公民館だより

東大和市南街5-32 ☎：564-2771　発行・編集：南街公民館

## 公民館開館５０周年

６月１５日は、東大和市の公民館５０歳の誕生日です。

昭和４６（１９７１）年６月１５日開館。

地域の風 45

## 市民が守った奇跡の変電所

桜が丘在住の東大和・戦災変電所を保存する会副会長　新家靖之さんにお話しを伺いました。

**＊発足は公民館学習から**

'81の公民館講座「太平洋戦争と郷土」で変電所の存在に衝撃を受けた、富山さん・松尾さん達が自主グループ「東大和の戦争と郷土史研究会」を発足。'88年議会に、「給水塔と小松ゼノア内の変電所の保存を求める陳情」を提出。「東大和の戦災建造物の保存を求める市民の会」結成。変電所は都が保存を決め、市の文化財となりました。私は会社がらみで市の女性施策審議会委員となり、出会いの中から活動に参加しました。

**＊現在の活動**

会員は60～70代中心で、月1回定例会を実施。「市民の会」に関わっていた小須田さんが会長となり再発足をした現在の会で、保存活動をしている人の共通の思いや資料をまとめ、「戦災変電所の奇跡」という本を発行。4か月で千冊販売し更に増刷、その収益は変電所保存の寄付にもなり、月1回の変電所公開日に販売しています。

**＊東大和市でシンポジウム**

今年10月全国組織の第24回戦争遺跡保存全国シンポジウムを東大和市で開催。全国の戦争遺跡研究者が来られます。行政が変電所を残したことで評価が高い東大和市を紹介する良い機会です。

**＊子ども達に伝えたいこと**

戦災変電所のことは、教科書等で子ども達は大人より良く知っていて、見学に来て、話もよく聞いています。この戦災変電所が保存されたのは、それを貴重だと思う多くの市民の声があり、そのきっかけは公民館の活動からだという歴史を知ってもらい、郷土の誇りにして欲しいと思います。

## 市民の学習を支えて公民館は開館５０周年

**＊公民館開館50周年に当たり**

公民館講座が開かれたことは本当に良かった。その学習活動がベースにあったから今の公民館の活動があります。社会教育の場としての公民館活動の方向が大事です。東大和市の公民館は住民が作り上げてきた立派な歴史があり、公民館グループを職員がつないでいって欲しいと切に思います。コロナ禍で市民活動の場が制約される中、人と人をつなぐ場としての公民館の重要性を特に感じます。

※平和を守る活動への熱い想いが心にしみるお話でした。（若松）

4 人に 1 人が高齢者になると言われる今日、当市には、高齢者が安心して生活できるよう高齢者の見守り支援を専門とした窓口が南街 2-49-3 の在宅サポートセンター内に設置されています。

今回は、社会医療法人財団大和会が市より委託され運営している「高齢者見守りぼっくすなんがい」と「高齢者ほっと支援センターなんがい」を訪問しました。

## 高齢者見守りぼっくすなんがい

塚原あづささん（介護福祉士・主任介護支援専門員）にお話を伺いました。

【職員と事業内容】

職員は2人です。平成27年4月に開所。市から提供される情報をもとに、地域の 65 歳以上の独居、高齢者のみの世帯を訪問し、支援の相談に対応しています。又、自治会長、民生委員、近隣の方々からの情報にも対応しています。

【活動】

対象となる高齢者が多く、2人の職員ではなかなか廻りきれません。年齢の高い方から訪問しています。心配な方には、定期的に声掛けをしています。

80 歳以上の方は年 2 回訪問します。65～74 歳の方には年 3 回発行（6・10・2 月）している「見守りぼっくすなんがい通信」をポスティングしています。

【日ごろの苦労は】

突然訪問するので、玄関を開けてくれなかったり、不審者と思われ警戒されたりしましたが、6 年が経過して大分定着してきました。

訪問前には以前の記録を確認するようにして訪問するので、話がスムーズになることが多いです。

【他の事業は】

民生委員や自治会、社会福祉協議会の見守り声かけ活動、「見守りネットワーク～大きな和～」等のネットワークと連携を行い、必要な方の支援をします。

又、民間緊急通報システムの活用を推奨しています。

65 歳以上の 1 人暮らしの高齢者、高齢者世帯、日中独居の高齢者が対象です。警備会社と連携していて日中、夜間も対応できるので安心して生活ができると言われます。

各自治会に「見守りぼっくすなんがい通信」の回覧をお願いしています。

南街は高齢者も多いが自治会活動が活発で隣近所の交流も多いです。是非「高齢者見守りぼっくすなんがい」の名称を覚えてもらえると嬉しいです。

＜取材者の声＞コロナウイルス感染が心配される中、お話を聞きながら、高齢者の思いや、優しさ、心配り仕事の責任感、使命感を感じました。これからも地域で高齢者の見守り活動の関心を深めていきたいものです。

## 高齢者ほっと支援センターなんがい

所長の馬見塚統子さん（社会福祉士・介護支援専門委員）と岡部誠さん（社会福祉士・生活支援コーディネーター）にお話を伺いました。

【事業内容】

平成 24 年に開設し、地域の身近な高齢者の相談窓口になっています。主に介護保険の相談です。65 歳以上が対象ですが例外として 40～64 歳で指定の病気になって介護を必要とした方。1 人暮らしで誰も支援する人がいない方にも関わっています。

【職員】

職員数は 8 人です。専門職に社会福祉士、保健師、主任ケアマネージャー、ケアマネージャー、認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーターがいます。

【利用者数】

平成 24 年度は 4,903 件、令和元年度は 9,684 件でした。コロナの影響で相談が減ったという事はないようです。

【相談内容】

病院のスタッフから、退院する患者の介護保険の要請が多いです。親の物忘れに対する相談や病院の紹介依頼もあります。

【気付いたことは】

コロナ禍で「ふれあいなごやかサロン」や「元気ゆうゆうポイント事業」が自粛になったため、グループ

の責任者向けにガイドラインを作って再開を目指しましたが、責任者の中には体調をくずし辞めた方もありました。

コロナ禍では「ふれあいなごやかサロン」は少人数で自宅の開設が増えることを望みたいです。

【市民に向けて希望することは】

介護サービスが充実してきているので、サービスを使い、他人と交流し、住み慣れた所で永く生活をしてほしいです。

市役所に相談に行く前に、まず地域のセンターに来て下さい。興味を持って身近に感じてほしい。

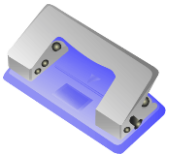
高齢になっても安心して暮らせるための情報紙「てとてとて」を年 3 回発行しています。この情報紙は地域の取り組みや支え合いの活動を紹介していますので読んでください。

今後、地域と連携した「地域づくり」が必要です。

南街は地域柄、火災が心配されます。防災の観点からも、独自のパンフレットを作って、地域全体にサポートメンバーになっていただくよう、南街・桜が丘の防災協議会、各自治会にも働きかけ、連携した「地域づくり」を目指します。ご協力をお願いします。

＜取材者の声＞誰にとっても介護支援は身近な問題として考える時代と言えます。1人で悩まずにまず、支援センターに気軽に相談しに行きましょう。そして、住み慣れた所でいつまでも生活できるように地域で支え合いましょう。

# ご利用になれる備品を紹介します



＜１階ロビーに設置してあるもの＞

**コピー機**

１枚　１０円（コインキットに投入）

A4、A3、B5、B4

白黒のみ

**印刷機**

原紙１枚　１００円

（５００枚超えるごとに１００円割り増し）

（窓口支払いのため、利用時間は火～土の午前９時から午後５時までです。）

用紙は持参

A4、A3、B4

白黒のみ

**紙折り機**

無料　２つ折り、３つ折りなど

（職員見守りのため、利用時間は火～土の午前９時から午後５時までです。）

＜窓口で貸し出しを受けるもの。職員による出し入れのため利用時間は火～土の午前９時から午後5時まで＞

**裁断カッター**

薄口の用紙を一度に１０～２０枚枚程度裁断することが出来ます。

**2穴パンチ**

薄口の用紙を一度に１６０枚程度穴あけすることが出来ます。

＜窓口で申し込み、学習室で使用するもの＞

**ＣＤラジカセ**

窓口でお渡しします。

**延長コード**

窓口でお渡しします。

**テレビ**

窓口でリモコンを貸し出します。

ご利用の学習室に移動してご使用ください。

＜備え付けの学習室で使用するもの＞

**ピアノ**

２０１号室でご使用ください。

学習室貸し出しの際、ピアノの鍵をお渡しします。

**譜面台**

全室に１台ずつ設置してあります。複数使用される場合は、窓口で申し込んでください。

南街に公民館ができて、６月で５０年となります。この地は図書館にも関わりのあるところです。現在の南街公民館のある場所は、昭和２９年に都立図書館むらさき号の貸出ステーションとなりました。昭和４８年には旧南街公民館が開館し、図書室で図書の貸出しが始まりました。その頃の関係した市民の方の思い出を、「東大和市立中央図書館開館３０周年記念誌」からご紹介したいと思います。

…私の子どもが小学生だった頃の話です。

たくさんの良い本を子ども達に読んで欲しくて、同じ年頃の子を持つ母親同士で本の貸し借りをして過ごしていました。そのうちに、私達は手持ちの本を持ち寄り、地域の子ども達のために、市内で初めての「つくし文庫」を旧南街公民館ロビーで始めました。

それでもなお本不足で、みんなで知恵を出し合い、立川の旧多摩社会教育会館の中にあった都立図書館から２か月に１回、２００冊の本の団体貸し出しを受けて文庫活動を続けました。

当時は読み聞かせをする場所もなく市にお願いして使われなくなったバスを購入して頂きました。それを旧南街公民館わきの空き地に置き、その中で読み聞かせをしたこともなつかしい思い出です。

文庫活動のかたわら「東大和に図書館を」という運動を続け、ようやく開館したのがこの中央図書館です。

文庫で本を読み楽しんだ子ども達も…その子ども達が図書館を利用しています。

吉田　リキ子

…私と図書館の出会いは、Ｓ４５年に…転居してきて「図書館はどこにありますか？」と役所に電話して、「まだありません」との答えに、「ええ…！」と途方にくれ大変な所に来てしまった、どうしよう！、それが始まりです。まもなく開館した南街公民館の講座で「児童文学」に出会い子どもに与える本の大切さを知りました。子どものＰＴＡ仲間と学校の先生の協力を得て、家庭にある本をそれぞれ持ち寄り、「文庫」を始めました。南街公民館のロビーを借り、手探りで、「つくし文庫」が誕生しました。

すぐ本不足になり、立川の移動図書館から貸出を受けたり本には本当に苦労しました。図書館が欲しいとの思いが「東大和の図書館を考える会」へ次は、「図書館建設」の請願書をと休む間もなく動きまわりました。

請願が通り、建設まで１０年の月日がかかり、図書館が開館したときの喜びは、今でも忘れられません。仲間と手を取り合いお互いの労をいたわり合いました。「長かったわね」と…

加々見秀子

南街公民館開館まもない頃、階段での読み聞かせ（「明日をさぐる　東大和市公民館開館20周年記念誌」）

**【編集後記】**

公民館講座がきっかけになり、地域活動が長く続いている事に感動しました。「人と人をつなぐ場としての公民館」という新家さんの言葉をしっかり受け止めていこうと思いました。「高齢者みまもりぼっくすなんがい」「高齢者ほっと支援センターなんがい」も人と人をつなぐ場として大切な場所だと思いました。（小林）